
原発持ちの県に住む頭の悪い私が、原発の事を考えてみた。

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原発持ちの県に住む頭の悪い私が、原発の事を考えてみた。

【Nコード】

N5192BA

【作者名】

暁

【あらすじ】

私は原発持ちの県に住んでいます。今回、いろいろ考えてみました。

(前書き)

ガラスのハートなので、批判は控えていただけるとありがたいです。

誤字直しました。すみませんでした。

世間だが今、何かと原発のニュースが多い。

考えてみると…私の住む県は原発をたくさん持っている。でも、ずっとこの県に住む私は、それが当たり前。原発の何が悪いかわからなかった。

いや…今でもわからない。

友達は原発の事や危険性をよく知っているみたい。どうやら、学校で習ったみたいだ。

私は学校にほとんど行ってないし、勉強も全然してない。だから原発の事や危険性がわからない。

放射能、汚染、被爆、何がなんだかさっぱりだ。

原子量発電所に行つて、原子力発電所の事がよく分かるゲームをやつても、楽しいだけでよくわからない。

他にも原発関係の建物には行つた。ほとんどイベントのためだけに。職員の人は原発の事をいろいろ、子供たちに分かりやすく教えていた。なのに、私はわからないって私は相当アホだ。

今度原発関係の建物に行つてみようバカなりによく考えるために。原発を持つ県で今、私が住んでいるのは、生きているのは奇跡だと感謝しなければいけない事だと思う。当たり前すぎて気づけなかったけど。

そういえば、一時期母が原発の清掃員として働いていた。仕事をして、終われば母が帰ってくる。

そんな当たり前前の事も、奇跡なのかもしれない。

もう少しちゃんと考えなければいけない。

原発持ちの県に住む危険性と、この当たり前の奇跡を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5192ba/>

原発持ちの県に住む頭の悪い私が、原発の事を考えてみた。

2012年1月14日12時47分発行